

論文名：てんかんの食事療法が口腔健康状態に及ぼす影響の検討（要約）

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 中野 恵美子

---

高脂肪低糖質であるケトン食などの食事療法を行っているてんかん患者は、他の治療法を行っている患者よりもう蝕および歯周病が少ない可能性が考えられるが、ケトン食療法を行っている患者の口腔状況に関する研究報告はほとんどみられない。本研究の目的は、てんかんの治療としてケトン食などの食事療法を行っている患者の歯科保健に関する課題を明らかにすることである。対象は静岡てんかん・神経医療センターに外来通院または入院中のてんかん患者 53 名とし、2015 年 7 月から 2016 年 8 月に調査を実施した。対象者に対し、生活習慣および歯科衛生に関する面接調査、口腔内観察および臨床情報の収集を行った。成人 2 名を除く 51 名（男児 27 名，女児 24 名，1～14 歳，平均年齢 6.7 歳）を分析対象とした。てんかんの治療としてケトン食などの食事療法を行っている患者（食事療法群）15 名と食事療法以外の方法でてんかんの治療を行っている患者（対象群）36 名の比較において、平均年齢，性別，要観察歯の有無，歯肉の炎症所見の有無，歯肉増殖の所見の有無，口腔に関して気になることの有無，かかりつけ歯科医の有無，フッ化物応用の有無，口腔習癖としての口呼吸の有無については，2 群間に統計的な有意差はみられなかったが，茶渋を除く歯の着色に有意差がみられた ( $p=0.01$ )。今後，う蝕や歯周病の予防のみならず，審美的な問題に関しても患者のニーズに対応する必要性が示唆された。